

官民協議会 向殿サブワーキンググループ

2021年6月3日開催

議題

1. 【連絡】 向殿SWG 当面のスケジュール
2. 【確認】 これまでの議論のとりまとめ
3. 【提案】 今後の進め方（案）
4. 【参考】 コミュニケーションツールの提案
5. 【情報提供】 ビジョンゼロサミットについて紹介

1. 向殿SWG 当面のスケジュール

協議会事務局資料より

2021.06.03

当面のスケジュール（案）2021年4月～2022年3月

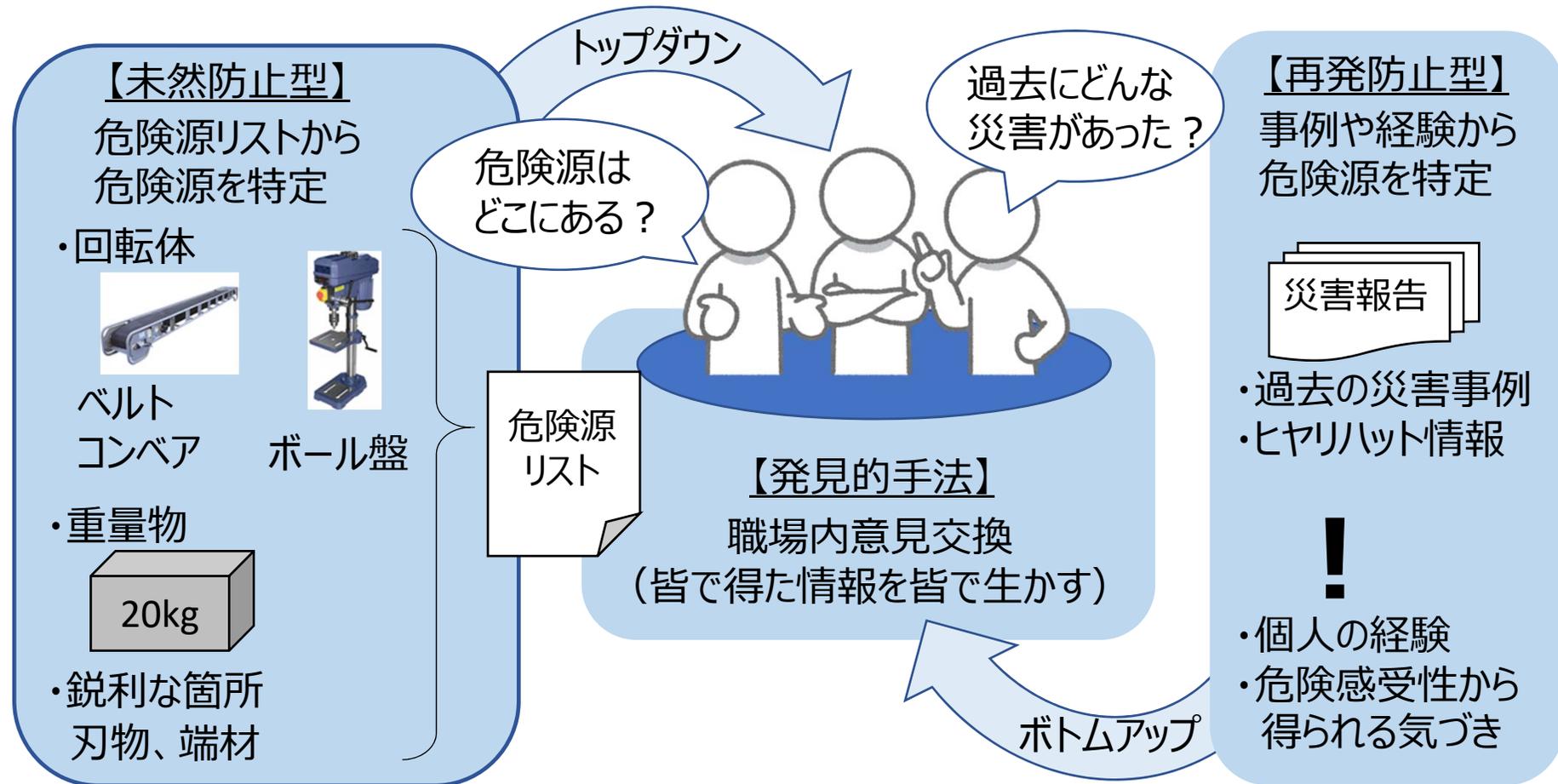
	2021年5-6月	7-9月	10-12月	2022年1-3月
官民協議会	○(第9回)	○(第10回)		
全体WG	●(第9回)	●(第10回)	(●)	
各サブWG	1~2回	1~2回	1~2回	1~2回
全国大会			※東京大会	

- **第9回ワーキンググループ：2021年5～6月（各サブWGは適宜開催）**
 - ①各サブワーキンググループでの検討状況の聴取・今後の検討内容の決定
 - ②東京大会での発表方法の検討
 - **第9回官民協議会：2021年5～6月**
 - ①会長及び会長代理の選出
 - ②ワーキンググループでの検討状況の聴取、今後の検討内容の決定
 - ③東京大会での発表方法の検討
 - **第10回ワーキンググループ：2021年7～9月（各サブWGは適宜開催）**
 - ①議長及び議長代理の選出
 - ②各サブワーキンググループでの検討状況の聴取・今後の検討内容の決定（今年度の取組の成果）
 - ③東京大会までの検討事項、スケジュールを確認
 - **第10回官民協議会：2021年7～9月**
 - ①ワーキンググループの検討状況の聴取・今後の検討内容の決定（今年度の取組の成果）
 - ②東京大会への対応方針の決定
 - **ワーキンググループ：2021年10～12月（開催及び時期は各回体と協議し決定）**
 - ①次年度の活動方針（案）の提示
- ※全国産業安全衛生大会（東京大会）：2021年10月27日（水）～29日（金）

※第4回アドバイザーボード（神戸宣言に基づく計画策定等）は、7～9月開催の第10回ワーキンググループ終了後に開催予定

2. これまでの議論のとりまとめ

<リスクアセスメントの型について>



<現状>

再発防止型の観点が必要視され、未然防止型の観点が弱く網羅的なRAまで至っていない。

- ・危険源リストの利用が不透明
- ・再発防止型の情報量に限界がある

3. 今後の進め方（案）

- ・発見的手法を潤滑に行えるよう、わかりやすいコミュニケーションツール案を作成。
（現在、事務局で試作中）
- ・業態横断的な情報の共有化により、再発防止型の情報量と危険源の具体例を増やす。

コミュニケーションツール案イメージ

- ① ISO（JIS）を元に危険源の一覧を作成。
その際、具体的な単語を挙げ、事故の型との関連性も明確にする。
- ② 一覧に写真やイラストを掲載し、より具体的な理解を促す。
- ③ 作成時は既存テキスト類も参考にする。
- ④ 現場が皆参加して意見交換しやすい。



4. 今後の進め方（案）

1. コミュニケーションツール案の作成提示（望ましい姿の作成）

- ・危険源リストの整備と並行して、発見的手法を円滑に進められるようにするためのコミュニケーションツール案を、事務局で数パターン作成提案し、SWGの意見を交えながら検討を進める。

2021年8月



2. コミュニケーションツールに関する調査と意見収集（現状調査と意見収集）

- ・団体を通じ、各社単位でのRAにおけるコミュニケーションの取り方、使用する資料を調査。
- ・その際、コミュニケーションツール案を添えることで、無い場合はこれらを使用することへの意見を求める。

2022年3月



3. 災害事例のR A漏れへの検証（ツールの改善とトライアル）

- ・過去災害が発生した作業を各社で選出し、等が職場にコミュニケーションツールを利用し、改善点を得る。
- ・発見的手法を意識して再度RAを実施することで、「何が抜けていたか」「なぜ抜けていたか」を考察する。
- ・その際、「なぜ」を繰り返し、R Aの技術的手法に限らず、業務影響やR Aの運用等の面にも漏れ要因を追求する。

2022年10月

5. 職場のみんなで取り組むリスクアセスメントシート（案1 ステップ記入型）

- ・危険源を記載し、その後ケガからもプロセスからも危険源からも自由に記入可能

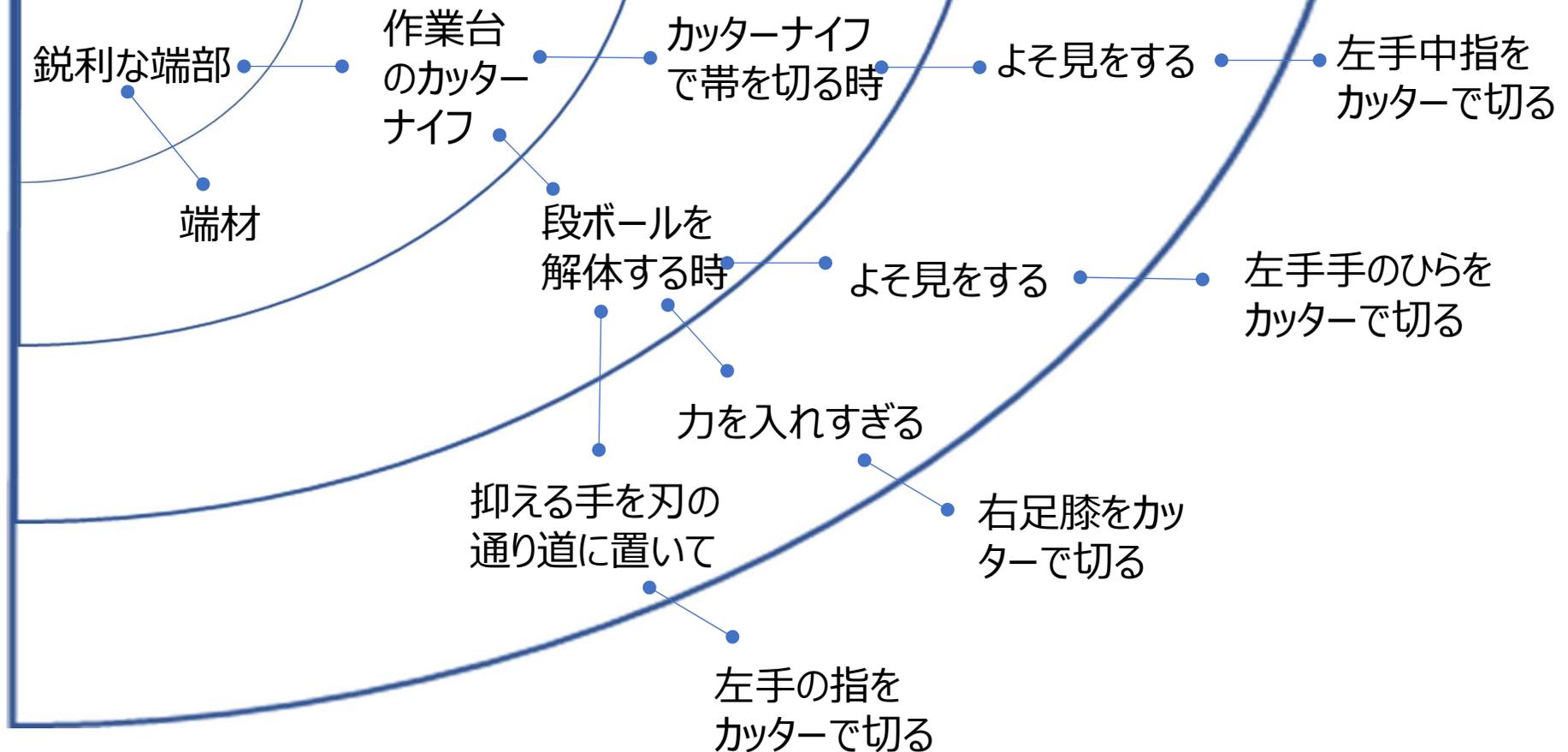
【予想されるケガ】

【不安全行動】

【その場での作業】

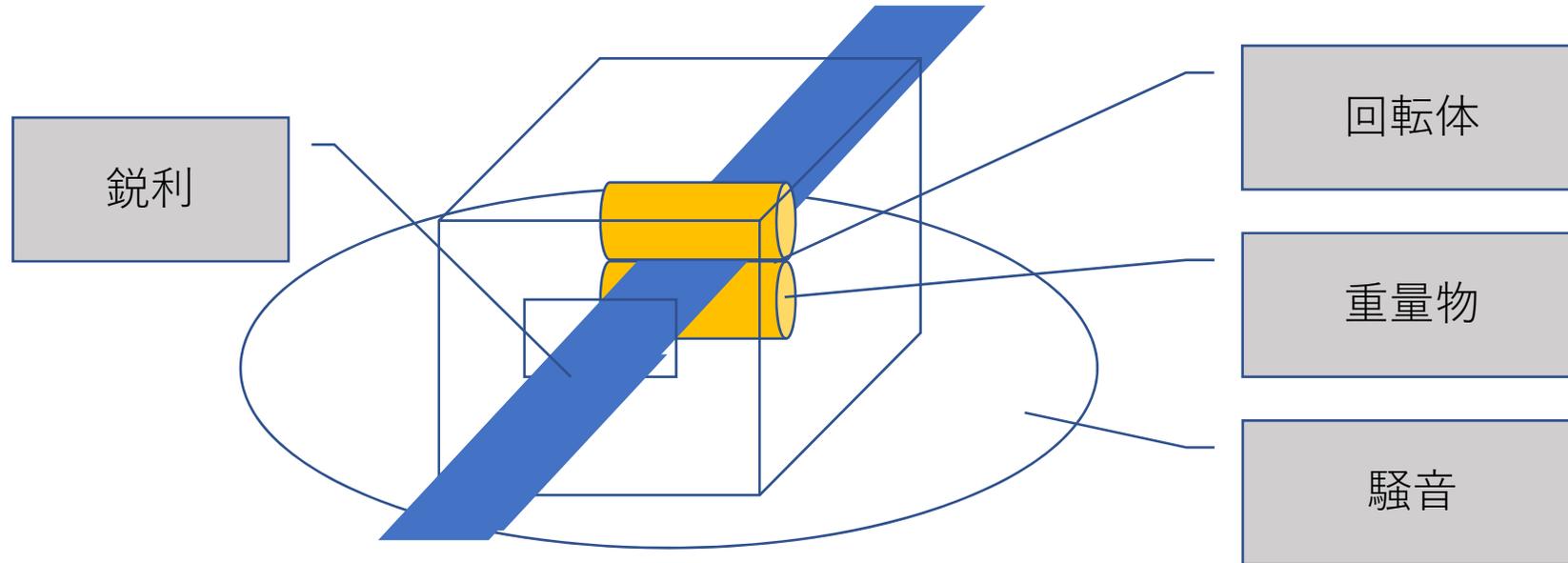
【危険源がある具体的な場所・モノ】

【探す危険源】



6. 職場のみんなで取り組むリスクアセスメントシート（案2 写真書き込み型）

- ・写真やイラスト、設計図等をもとにする。
- ・関係する危険源等の情報を記載。



【具体的な実施例】

現場の写真を持ってきて、A3サイズに印刷



作業者も含め、皆が思い思いに危険源に関する情報を紙（右）に書いて、写真に添付していく（付箋が望ましい）



管理監督者はその情報をもとに類似の危険源や作業が無いかなどに再考を促す



RAリーダーがRAシートへ記載

<記載内容>

- ①危険源
- ②関係する作業、近づく作業
- ③考えられるケガ

7. 職場のみんなで取り組むリスクアセスメントシート（案3 作業手順書型）

危険源の例（危険源一覧参照）			関係する過去災害・類似災害・ヒヤリハット等								
回転体、鋭利、はさまれ、重量物、車両			① 台車で運搬中、フォークリフトと接触した（ヒヤリ）								
熱（高低）、感電、化学物質、姿勢			② コンベアを起動後、無意識にコンベアに置いた左手の薬指が、ベルトの隙間に入りチェーンとプーリーに挟まれ、指先に切創を負った（カバー設置し対策済）								
No.	作業の手順	作業詳細	関係する危険源						過去災	予想される災害	安全・品質のポイント
			回転	鋭利	姿勢	重量物	車両	挟まれ			
1	準備	パレットトラック置き場に行く					○		①	構内を走行しているフォークリフトに接触する	歩行ルールを順守する
2	ワーク補充	空のパレットトラックをワーク置き場に移動させる					○		①	構内を走行しているフォークリフトに接触する	パレットトラックの取り扱いルールを順守する
3		ワーク置き場の指定位置に停止する									定位置表示内に停車
4		カンバンとワークが一致していることを確認する									カンバンに記載の数通りかどうか確認
5		パレットトラックに通箱を積む				○					パレットトラックの取り扱いルールを順守する
6		熱処理機投入位置までパレットを移動させる					○			構内を走行しているフォークリフトに接触する	急発進、急停止、急旋回を行わない
7		熱処理機投入位置の指定位置に停止する									定位置表示内に停車

- ・作業手順書をもとに作成。
- ・危険源は予め別表一覧にまとめておく。
- ・過去災害や類似災害、ヒヤリハット等の情報を用意しておく。
- ・作業の手順ごとに関係する危険源を選択。
- ・案では○を記入しているが、詳細な危険源の名称を記載してもよい。

8. 職場のみんなで取り組む前に知らせること（案）

対象の選定

- ・過去に労働災害が発生した作業
- ・危険な事象が発生した作業
- ・労働者の就業に係る危険又は有害性による負傷又は疾病の発生が合理的に予見可能であるもの
- ・平坦な通路におえる歩行等、明らかに軽微な負傷又は疾病しかもたらさないと予想されるものについては、対象から除外して差し支えない
※軽微な負傷又は疾病：医師による治療を要しない程度

情報の入手（準備するもの）

- ・設備設計製造段階で実施されたリスクアセスメント結果
- ・作業標準、作業手順書
- ・関係する非定常作業（保守点検・補修・緊急事態対応を含む）
- ・機械設備等のレイアウト等
- ・作業の周辺の情報に関する情報（作業環境測定結果や勾配等）
- ・使用物質の危険有害性情報（SDS等）
- ・混在作業による危険性等、複数の事業者が同一の場所で作業を実施する状況に関する情報
- ・災害情報、ヒヤリハット、災害統計等（他者・関連業界含む）
- ・その他、調査等の実施にあたり参考となる資料等
具体例：トラブルの記録、労働者が日常不安を感じている作業等の情報 等



ビジョン・ゼロ(Vision Zero)の紹介

世界における新しい潮流として
安全・健康・ウェルビーイング (Well-being) を追求する
Vision Zeroの考え方・活動内容 並びに
第2回Vision Zero Summit 2022のオンライン開催検討について

2021年 6月 15日



向殿 政男

明治大学 名誉教授
(一社)セーフティグローバル推進機構(IGSAP) 会長



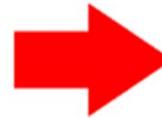
労働安全衛生の進化

～「安全」から「安全・健康・ウェルビーイング」へ～

Before



進化



Now and Future

- 現在のグローバルな潮流 -

Vision Zero

Safety, Health, Wellbeing



2017 ISSA launch

2019 Vision Zero Summit

ゼロ災運動
1973年に日本で始まった



労働労働安全衛生の世界的な動き

ビジョン・ゼロ活動



ISSA（国際社会保証機構：ILOの関連機関）がキャンペーン

VISION ZERO
Safety.Health.Wellbeing.



◆ビジョン・ゼロの 3要素

- 安全(Safety)
- 健康(Health)
- 幸福(Wellbeing)

7つのゴールデンルール



1. トップがリーダーシップを取る
2. ハザードを特定する
3. ターゲットを定義する
4. 安全なシステムを確保する
5. 安全な技術を確保する
6. 資格制度を推進する
7. 人財への投資

www.visionzero.global (launched September 2017)



Vision Zeroキャンペーンに登録している海外の企業・団体

VISION ZERO
Safety. Health. Wellbeing.
As of February 21, 2020

賛同企業は全世界で15,000社

 General Electric Electronics (US)	 JOHNSON ELECTRIC Electronics (US)	 ABB Electronics/ heavy industry (Switzerland)	 SCHOTT glass made of Idra Industrial glass (Germany)	 SIEMENS Electronics (Germany)	 Rockwell Automation Industrial automation (US)
 BOEING Aerospace (US)	 AIRBUS "Airbus Operations GmbH" Aerospace (Germany)	 SAMSUNG SAMSUNG C&T Engineering & Construction Group Electronics (Korea)	 Schindler Elevator/escalator (Switzerland)	 DANONE Foods (France)	
 inrs France	 perosh Europe	 OSHA US	 novo nordisk Pharmaceutical (Denmark)	 Boehringer Ingelheim Pharmaceutical (Germany)	 Lilly Pharmaceutical (US)
 SEAGATE Hard disk (US)	 Shell Chemicals Petrochemical (Netherlands)	 Chevron Petroleum (US)	 Pfizer Pharmaceutical (Germany)	 BAYER Chemical/ pharmaceutical (Germany)	 DU PONT Chemical (US)
 DELL Computer (US)	 Deloitte Consulting (US)	 3M Innovation Chemical (US)	 Nestle Good Food, Good Life Food, beverages (Switzerland)	 LEGO Children's toys (Denmark)	 BIC Stationery (France)
 Walmart Retailer (US)	 TESCO PLC Retailer (UK)	 Mercedes-Benz Automobile (Germany)	 Google Internet Technology (US)	 ROLLS ROYCE Automobile (UK)	 Coca-Cola Beverage (US)
 intel Technology (US)	 DAIMLER Automobile (Germany)	 DHL Transport (US)	 L'OREAL Cosmetics (France)	 Unilever Consumer goods (Netherlands/UK)	 BÜHLER Food processing (Switzerland)
 DELL EMC Data Storage (US)	 DELL Technologies Technology (US)				

※()の国名は本社・本拠地の国名であり、Vision Zeroに登録した拠点の国・地域とは異なる場合がある。



Vision Zeroキャンペーンに登録している日系企業・団体 (登録地は海外および日本どちらも含む)

VISION ZERO
Safety. Health. Wellbeing.
As of June 29, 2020

MITSUBISHI ELECTRIC
Changes for the Better
Mitsubishi Electric Hydronics & IT Cooling Systems S.p.A.
Mitsubishi Electric Hydronics & IT Cooling Systems SpA (Italy)

TOYOTA
TOYOTA ZAMBIA

HONDA
The Power of Dreams
Honda motorcycle and scooter India pvt ltd (India)

Canon
Delighting You Always

Canon Marketing Sdn. Bhd. (Malaysia)
Canon opto (m) sdn bhd (Malaysia)

HITACHI
Inspire the Next
Hitachi Consulting (UK)
Hitachi Infrastructure Systems (Asia) Pte Ltd. (Singapore)
Hitachi Construction Machinery Zambia Ltd. (Zambia)

HITACHI
Inspire the Next
(Japan)

清水建設
(Japan)

大林道路株式会社
(Japan)

NIPPO
(Japan)

ZAMA

Zama Precision Industry Manufacturing Inc (the Philippines)

OMRON
Omron Industrial Automation Europe (the Netherlands)

JISHA 中災防
Japan Industrial Safety & Health Association

TEIJIN
Teijin aramid (the Netherlands)

SHIMANO
Shimano Pte Ltf (Singapore)
Shimano Components Malaysia Sdn Bhd (Malaysia)

デンカ生研株式会社
DENKA SEIKEN CO., LTD.

DENSO
Crafting the Core

DENSO Philippines Corporation

JC 日本認証株式会社
JAPAN CERTIFICATION CORPORATION

夢のあるおいしいお菓子を
ムラカミ

MITSUBISHI MOTORS
Drive your Ambition

DOWA
DOWAホールディングス株式会社

Mitsubishi Motors Philippines Corporation

SAFEETY S 一般社団法人
セーフティグローバル推進機構
The Institute of Global Safety Promotion

DAIKIN
Daikin Malaysia Sdn Bhd (Malaysia)

FUJITSU
Fujitsu UK

MIRA
HORIBA MIRA Ltd (UK)

YAZAKI
Yazaki-Torres Manufacturing, Inc (the Philippines)

SHINKO
Shinko electronics Malaysia sdn bhd

JSAGROUP
日本規格協会グループ SINCE 1948

NECA 一般社団法人
日本電気制御機器工業会
JAPAN ELECTRICAL CONTROL EQUIPMENT INDUSTRY ASSOCIATION

MCF
MITSUI COPPER FOIL (MALAYSIA) SDN.BHD.
Mitsui Copper Foil (Malaysia) Sdn Bhd

Fuji Electric Malaysia
FUJI ELECTRIC (M) SDN bHD (Malaysia)

Shachihata
Shachihata (Malaysia) Sdn Bhd

AEON
AEON Credit Service (M) Berhad (Malaysia)

SPI Sumisetsu Philippines, Inc.

ShinEtsu
Shin-etsu polymer Malaysia Sdn Bhd
Shin Etsu Magnetics Philippines

MUFG
MUFG Bank (Malaysia) Berhad

IDEC
IDEC Corporation (Japan)
IDEC Corporation (USA)
IDEC IZUMI ASIA PTE LTD (Singapore)
APEM (France)
爱德克电气贸易(上海)有限公司 (China)

SUMITOMO ELECTRIC INTERCONNECT PRODUCTS (M) SDN. BHD.
Connect with Innovation
Sumitomo Electric Interconnect Products (M) Sdn Bhd (Malaysia)

RIX リックス株式会社

SANKYU

Sankyu Malaysia

イー・アンド・イー ソリューションズ株式会社

IDEC IDEC FACTORY SOLUTIONS CORPORATION

増田労働衛生コンサルタント事務所

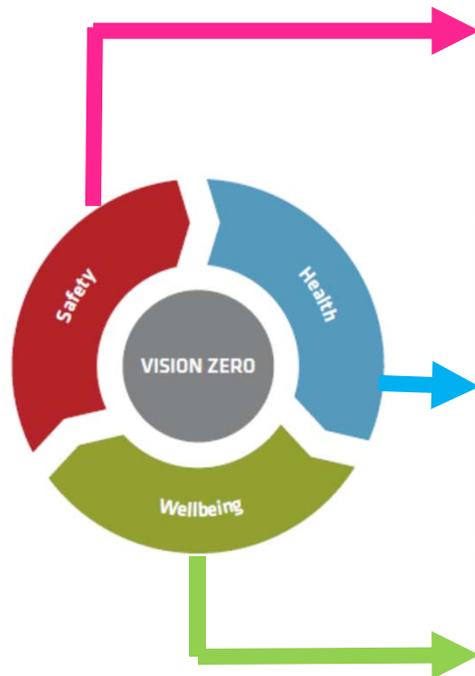


労働安全衛生におけるVision Zero

VISION ZERO
Safety. Health. Wellbeing.



「ウェル・ビーイング」とは、個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあること



	旧概念 (結果指標)	新概念 (前向き)
安全(Safety)	身体的傷害がない	リスクからの解放 リスクを受け入れ、ベネフィットを求めて、自由に行動できる “安心して”
健康(Health)	身体的病気、疾病がない	心身共に健全 ②身体的にも、精神的にも、社会的にも良好な状態(WHO)、 “元気で”
ウェルビーイング (Well-being)	①(メンタル等) 精神的障害がない	③やりがい、生きがい、幸福 ⇒安心 “意欲的に”

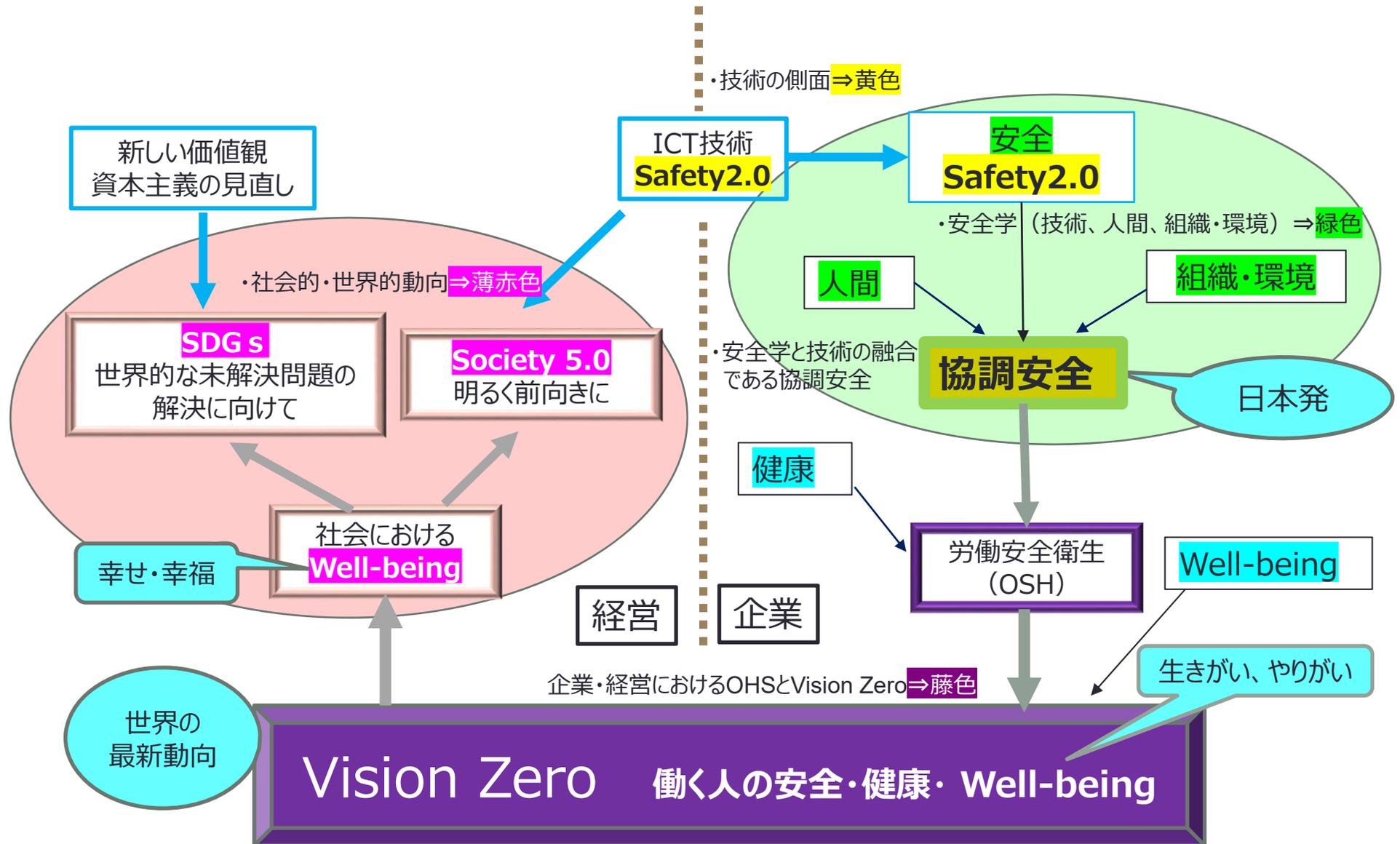


企業にとっての安全、健康、Well-being

- 働く人の安全・健康・Well-being(SHW)は、企業の存続基盤。
- Well-beingは、新しく目を向けるべき社会の価値。
- 企業が、ステークホルダー及び社会のWell-beingに貢献することは、社会からの信頼を得る。⇒企業価値の向上。
- Well-beingに取り組むことは、SDGs ,Society 5.0に繋がるビジネスの機会。



経営と企業における安全・健康・Well-being





第1回ビジョンゼロサミット@ヘルシンキ

VISION ZERO
SUMMIT
12-14 NOV 2019
HELSINKI FINLAND

Strategy. Mindset. Practice.

REGISTRATION

JOIN NEWSLETTER



VISION ZERO
SUMMIT
HELSINKI '19



VISION ZERO

Safety. Health. Wellbeing.





第1回ビジョンゼロサミットの日本の参加者



- ・30か国200名の安全専門家が参集
- ・日本から8件の論文講演し、連携して日本のホリスティックアプローチやSafety2.0をアピール
- ・発表件数は1位フィンランド、2位が日本、3位ドイツ、4位英国、5位オランダ・イタリア
- ・第2回VZサミット2022の日本開催要請を打診される



第1回Vision Zero サミット@Helsinki 国別発表件数

国名	発表数
Finland	19
Japan	8
Germany	5
United Kingdom	3
Netherlands	2
Italy	2
Russia	1
India	1
Spain	1
France	1
Denmark	1
Switzerland	1
Latvia	1
US	1
Australia	1
New Zealand	1
Zambia	1
Nigeria	1
UAE	1



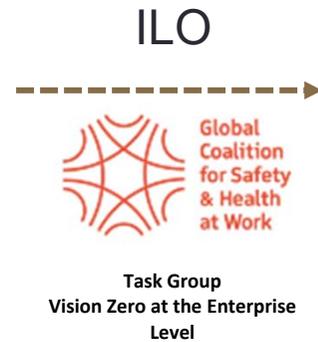
計52件



第2回 Vision Zero Summitの日本開催決定

(オンライン) +リアルイベント検討中

2022年5月開催予定



Chairpersons are from the organization above.



製造業安全対策官民協議会

